



〒954-0052

見附市学校町 2 - 7 - 9

電話 / Fax 0258-62-2343

E-mail mrisen@mitsuke-ngt.ed.jp

[令和元年 9月 27日 NO.6](#)

[9月 5日 : 片桐町 稲刈り](#)



腕を働かせる～ 師がく指導者からのメッセージ ～

見附市教育委員会師がく指導者 海藤英紀

1 腕を働かせた子どもを、教師はどう生かすのか？

学習活動は、子どもたちにとって「探検」みたいなものです。

(探検とは、未知の事態との遭遇、挑戦、戦い、克服の連続的な過程と考えます。)

私の小・中学校の時の学習活動は、効率的に確実に内容を理解させるという設計でした。

今の時代に求められる学習活動は、子どもたちがある場面に遭遇したとき、どのような方法をとるのか、その方法をとった場合に生じる困難はどのようなものか、解決のために使える能力はどのようなものを予想し、そのための手だてを立てておく。子どもたちの「出方」「動き」に対応して、それを生かすことが求められています。

つまり、子どもには自分なりのとった「方法」(武器)を使って、「**腕を働かせる**」(自分の持ち味を生かす)ことが大切で、教師には、子どもの「発言」「出方」「動き」を捉えていく眼が求められています。

2 子どもを見取る

子どもたちに課題を与えたときに、自力(腕をふるった状態)で、課題を解決できる子、解決にもう一歩の子、どうしたらいいかわからない子などに分かれます。

教師は、この見取りに、どのように対応するかが問われています。

まず、この子の解決策を認め、次の方策を問うか、または、クラス全体にこの子の考えを広めるか、それともヒントコーナーへ行かせ、解決の糸口へと進めるかと、これからは、教師が子どものとった解決策をどう編集・活用していくかといった力が求められています。

教師が課題に引っ張っていく授業ではなく、子どもの考えをどう生かすか、子どもとともに歩んでいる授業が大切なのではないのでしょうか。

師がくで、子どもを生かす授業に出会うと、私のわくわく感が止まりません。

巻頭写真に寄せて ……実りの秋，収穫の秋を迎えました……

連日，台風15号による千葉県内の被害が伝えられ，停電の復旧の遅さと住民の大変さに心が痛みました。被災の方々には一日も早く，普段の生活に戻って欲しいものです。

さて，今夏も猛暑日が続きぐったりしました。その後，8月下旬から雨の日が続きました。稲（早生品種）の収穫期を迎えましたが，農家の方は刈り取りが出来ず，雨が上がったこの日（9月5日），あちこちでコンバインが稼働していました。巻頭写真は，日没を前にコンバインが何台も大急ぎで収穫をしている片桐町付近のものです。越後平野は，今，収穫の秋を迎え活気づいています。

ところで，この日の午前中に，名木野町付近で収穫の様子を撮影したものが，下の写真です。一刻も早く収穫をしたいと，真っすぐに進めないどろの田んぼで収穫していました。ところが，見ているとコンバインの調子が悪くなり，機械を何回も止めて調整していました。この日，コンバインが壊れたのでしょうか。2箇所農機具屋さんと思われる方が，修理しているのを見ました。農家の皆さんも，自然への対応は大変です。



コラム “親は一生 教師は一時” ……「教師の一時は子どもが二度と戻れない一時」

夏休みに「4時から夢塾」で，特別支援関係の講座をいくつも開催しました。それは，各学校において，困り感を持つ子どもたちの対応に苦慮されている姿を多く目にしてきたからです。開講したどの講座も多くの参加を頂きましたことに感謝申し上げます。

さて，私事で恐縮ですが，教員人生の後半部分は，特別支援教育に関わる仕事をさせて頂くことが多くあり，この教育に関する講演を聞く機会に恵まれました。

その中で，印象に残るのが，植草学園短期大学の佐藤慎二先生です。先生のお嬢さんは，「自分で鼻水をかむことも出来ないほど重い障害があるが，学校（特別支援学校）が大好きなんです。高等部卒業後は，民間の清掃会社に勤め，毎日，楽しく働きに行っているんですよ。」という話は胸が熱くなり，強く心に残っております。

私はこの話から，温かい家庭や学校，理解のある職場等が，「インクルーシブな社会の基盤をつくるのだ」ということを学んできました。

佐藤慎二先生は，私の特別支援教育の師です。その佐藤先生が，8月21日の「見附市特別支援教育研修会」で『通常学級のUDと合理的配慮—学級経営・授業づくり・保護者との連携に焦点をあてて—』という演題で講演をされました。多くの皆さんも聞かれたと思いますが…「保護者との連携」というテーマの中で，標題の“親は一生 教師は一時”との話がありました。具体的には，「教師は，その子どもとの付き合いは数年，短ければ一年でしかないが，親は一生，付き合う（面倒をみる）んだ。」と言われ，続けて「教師の一時は子どもが二度と戻れない一時」の話をされました。「母のお腹の中は居心地が良くても二度と戻れない。母校も居心地の良い所にして欲しい。在学中に保護者との連携で，子どもたちが大好きな場所（学校）にして欲しい。」と締めくくられました。私たちは，見附市のすべての子どもが，学校が大好きになるように，全力で頑張りたいものです。
(こ)

<4時から夢塾> - 学校不適應の子どもたちへの対応 -



第8回の4時から夢塾(『特別夢塾』:長期休業中の午後2時から90分講座の第三弾)を8月6日(火)に、長岡赤十字病院小児科部長の田中篤医師から「学校不適應の子どもたちへの対応」をテーマにご指導を頂いた。

田中先生が関わられた多くの事例をもとに、不適應状態・症状の意味から受け止め方や対応の仕方等、幅広くご指導を頂いた。

<指導内容を簡単に述べる>

1 問題を抱えている子どもに対して最初に必要なこと

【田中篤医師】

- ・どんな子どもに対しても先入観を持たない。無知の姿勢で接する。
- ・この子の身になって、母親の身になって、創造力をフルに発揮して聴く。

2 不適應状態の子どもの大多数に見られるもの

- ・三歳位までの愛着形成期に、母親に十分に甘えやわがママができずに貧弱のまま成長をした。

3 対応策: その1 その子の身になって話を受け止める(安心させ、サポートする)

- ・子どものドラマが全部わかるものではない。心の奥底を理解するのに数年かかることも。
- ・浅い話の中にも意味があるので、真剣に聴いてやる必要がある。

4 対応策: その2 待つこと(待つことは「こころ」を育てる行為)

- ・教育は「教える」だけではなく「育てる」ことも重要。「育てる」には待つことが大切である。
- ・子どもを信じられないと本当の意味で待つことはできない。また解決すべき固有の時がある。



5 対応策: その3 否定しないで、可能性を信じて待つことの重要性

- ・子どもの時間に合わせ、可能な限り心理的に子どもに近づく。子どもに振り回されること。

6 まとめ 確かな愛着形成・根っこの形成に必要なもの

- ・甘えを存分に表現できる体験。大人を遠慮なく振り回す体験。第一反抗期の壁体験等が必要。

<参加者の声>

- ・事例が実際の子どもの姿を想像させてくれるものであり、関わり方の根本を考えさせられた。
- ・乳幼児期に愛着が形成されていくこと。自己肯定感が育まれることが何より大切だと感じた。
- ・子どもの身になってとことん話を聞くことの大切さ。子ども理解と具体的な対応を学べた。
- ・子どもへの接し方、教育の意味など「不適應」という範囲を超えて、考えることができた。
- ・自分たちのやっていることが「間違っていないのではないか」の価値付けをして頂いた。
- ・教師としても一人の親としても、人と関わることは、とても大きな事と感じた。今ある姿は様々な背景があり、目先の事だけで決めてしまえるものではない。しっかりと向き合いたい。



<4時から夢塾> -プログラミング的思考力の意味-



【片山敏郎先生】

第9回の4時から夢塾（『特別夢塾』第四弾）を8月8日（木）に、新潟市立鏡淵小学校の片山敏郎教頭先生から「プログラミング教育」のご指導を頂いた。講座後半は、新潟市で「デジタルものづくり工房」を運営されている齋藤博先生から指導を頂いた。

1 小学校プログラミング教育のねらい

・児童に「コンピュータに意図した処理を行うよう指示することができるということ」を体験させながら、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力を育成すること。

2 「プログラミング的思考」とは何か

・自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組合せが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組合せたらいいのか、記号の組合せをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのか、といったことを論理的に考えていく力である。



3 「プログラミング教育」は、だれが、どこで行うのか

- A 学習指導要領に例示されている単元等で実施するもの →5年：算数、6年：理科など
- B 学習指導要領には例示されていないが、学習指導要領に示される各教科等の内容を指導する中で実施するもの
- C 教育課程内で各教科とは別に実施するもの
- D クラブ活動など特定の児童を対象として、教育課程内で実施するもの



4 どのように行うのか、実感しよう（マイクロビットを活用した実践）

（1）電気を効率よく使う光センサー

・明るさセンサーの仕組みを理解し、コンピュータと明るさセンサーを使い「暗くなると自動でライトがつき、明るくなると自動で消えるライト」を作る。

（2）光センサーで、電気を効率よく使うプログラムを作ろう

・Makecodeでプログラミングする…予めプログラミングが「ブロック」で用意されており、そのブロックを組み合わせながら、基礎を学んだ。
⇒ 条件を判断するためのブロックが「論理」メニュー内に用意されていて「もし～、でなければ～」というブロックを使って組んだ。



<参加者の声>

- ・プログラミングの必要性やマイクロビットを用いた実践を知ることができ勉強になった。
- ・初めてでドキドキしたが、体験することが大切であり、操作を通して楽しさを感じられた。
- ・子どもが喜びそうだと感じた。どんな学びをしていくことが大事か準備をしていきたい。
- ・具体的な内容でよく分かった。しかし、現状のICT環境でどの程度できるか。教員の体験で終わらないようにしていきたい。
- ・プログラミング的思考力の意味を、体験を通して理解することができた。
- ・90%が環境を整えることであることから、一教員としてはどうすることもできない。行政の力が必要であることがわかった。市全体で同じように実践していくことが大切である。



<科学教育部>

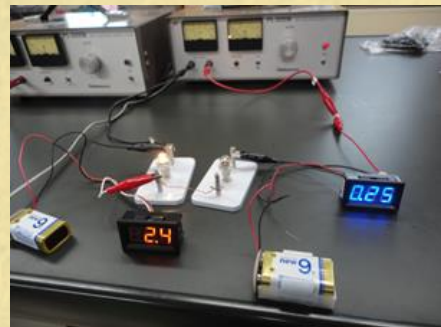
8・9月の活動報告

単元別研修会

中2「電流とそのはたらき」 9月12日（木）

今年度最初の、中学校単元の研修会を開催しました。新潟県の高校入試でも、頻出の電流の単元です。今回の研修会では「学んだ知識を活用する場面を設定することで資質・能力を育成する」問題解決学習を提案しました。問題解決の過程で「生徒が実験方法を立案する力」「新たに課題を見いだす力」「結果から正しい考察をまとめる力」の育成を図る単元構成です。数字を苦手とする生徒もいる中、自分たちの力で課題を解決していくことで、電気の学習が楽しくなったり、電気学習での機器を扱える自信をつけたりすることができます。生徒がいきいきと学習に向かう姿を目指していきましょう。

また今回から研修会を受講した先生方から、勤務校の先生方へ伝達講習をお願いしました。見附市の子どもたちが理科の授業を「わかる」「楽しい」と取り組めるように見附市全体で協力していきましょう。



研修会で紹介したデジタル電流計と電圧計

要請訪問・ゲストティーチャー

4学年PTA天体観測会 8月30日（金） 葛巻小学校

天気に恵まれず、外での天体観測はできませんでした。屋内で、星座早見盤の作成と天体の基礎知識について、紹介をしました。星座や太陽系の惑星についてはクイズを行い、親子で協力して楽しみながら学ぶことができました。今は天体観測に有効なスマートフォン用のアプリもたくさんあるので、気軽に天体観測を楽しめます。夜空が晴れて、星がきれに見える日には宇宙の神秘を感じ、星空を眺めてほしいものです。

4学年PTA科学体験 9月2日（月） 新潟小学校

どこの小学校でも好評のスライムづくりと、巨大シャボン玉づくりを行いました。巨大シャボン玉づくりでは、人が入ることができそうなシャボン玉や大きなシャボン玉を、連続で飛ばすことができました。親子で楽しんで、科学に触れることができました。



科学クラブ 9月3日（火） 上北谷小学校

ペットボトルロケットを作成しました。羽根をつけた1.5Lのペットボトルに水を入れて、空気入れで空気を注入することで上空に飛び立ちます。一番飛んだロケットは、3階くらいの高さまで飛んでいました。空気と水の性質については小学校4年生で学習します。学習したことを活かすことで、より高く飛ばすための方法を考えることができます。

科学クラブ 9月19日(木) 新潟小学校

今回の科学クラブでは「きらきらスノードーム」を作成しました。スノードームといいつつも、雪を再現したのではなく、青い色素で色付けをして海の中を再現した児童もいました。自分で選んだキラキラした飾りを入れて、世界で一つだけのオリジナル作品を作成することができました。



夏休み作品展 in ネーブルみつけ

今年度も3連休(9月21日～23日)を利用して「ネーブルみつけ」で夏休み作品展を開催しました。夏休みに児童生徒が心を込めて製作した作品を見ようと、907人(延べ人数)の方々のご来場されました。

一つ一つに努力の跡や、細部へのこだわりを見ることができました。見附市の子どもたちの頑張りを感ずることができる3日間でした。ありがとうございました。



今後の活動予定

<単元別研修>

①小4 「水の3つのすがた」	10月10日(木)	15:45～16:40
②小3 「明かりをつけよう」	10月17日(木)	15:45～16:40

<要請研修>

①名木野保育園 科学あそび	10月16日(水)	10:00～11:00
②桜 保育園 科学あそび	10月18日(金)	10:00～11:00
③田井小学校 科学クラブ(巨大シャボン玉)	10月23日(木)	15:00～15:45

<土曜子ども科学教室>

第3回「飛行の科学」(カラーキャンドル)	10月26日(土)	10:00～11:30
----------------------	-----------	-------------

「第55回 見附市児童生徒科学研究発表会」

会場：見附市中央公民館

10月4日(金) 13:50～16:20



小学校31作品、中学校10作品 計41作品です。

昨年度よりも多くの児童・生徒の発表があります。

興味をもって調べたことを精一杯発表する姿を

期待しています。